

厚生連ニュース

5月号



認知症とMCI

高齢者の認知症患者数や軽度認知障害(MCI)患者数は年々増加しています。

認知症の高齢者	約443万人	} 高齢者の 約27.8%
軽度認知障害(MCI)の高齢者	約559万人	

「認知症及び軽度認知障害の有病率調査並びに将来推計に関する研究」より

認知症の症状・特徴

年齢を重ねると誰でも、思い出したいことがすぐに思い出せなかったり、新しいことを覚えるのが苦手になったりしますが、『加齢によるもの忘れ』と『認知症』は違います。

加齢によるもの忘れ(例)	認知症によるもの忘れ(例)
体験したことの一部を忘れる (例)食事をしたことは覚えているが、何を食べたか覚えていない	体験したことのすべてを忘れる (例)食事をしたことを覚えていない
もの忘れの自覚がある	もの忘れの自覚がない

症状の現れ方は個人差があり、その日の調子によっても変わりますので、加齢によるもの忘れか、認知症によるもの忘れかを自分自身で判断することは難しいです。

症状が気になったら医療機関を受診しましょう。

かかりつけ医や地域包括支援センターへの相談、『もの忘れ外来』の受診をしましょう。

周りの人や家族の気づきも大事です。

「最近ちょっとおかしいな」は大事なサインです。早めの受診をおすすめします。



JA熊本厚生連健康管理中心 施設所長 栗津 雄一郎

TEL096 (328) 1256 FAX096 (328) 1229